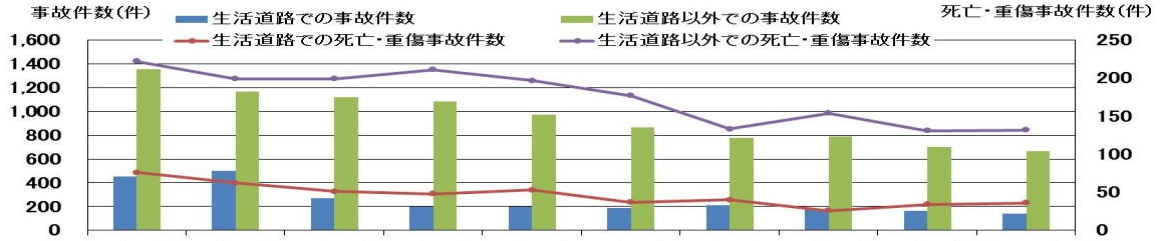


# 生活道路における交通事故の分析結果 ～ 過去10年間（平成22年から令和元年）の分析 ～

## 1 生活道路における交通事故の推移

本資料においては、事故の第1当事者（当該事故における過失が重い者をいう。）側の道路について「幅員5.5m未満の道路」を生活道路として定義し、分析を行っています。

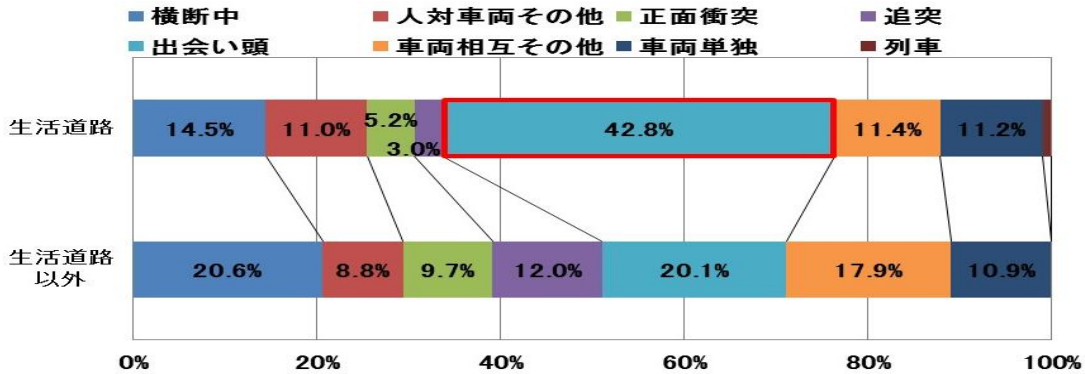


	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	合計
生活道路での事故件数	454	499	271	199	198	188	211	178	166	142	2,506
うち死亡・重傷事故件数	76	62	51	48	53	37	40	26	34	36	463
生活道路以外での事故件数	1,358	1,169	1,118	1,081	970	865	776	787	703	663	9,490
うち死亡・重傷事故件数	222	199	199	211	197	177	133	154	131	132	1,755
合計	1,812	1,668	1,389	1,280	1,168	1,053	987	965	869	805	11,996
生活道路での事故割合	25.1%	29.9%	19.5%	15.5%	17.0%	17.9%	21.4%	18.4%	19.1%	17.6%	20.9%

○ 県下の交通事故は、年々減少しているものの、生活道路における交通事故の割合は、過去10年ほぼ横ばいで推移

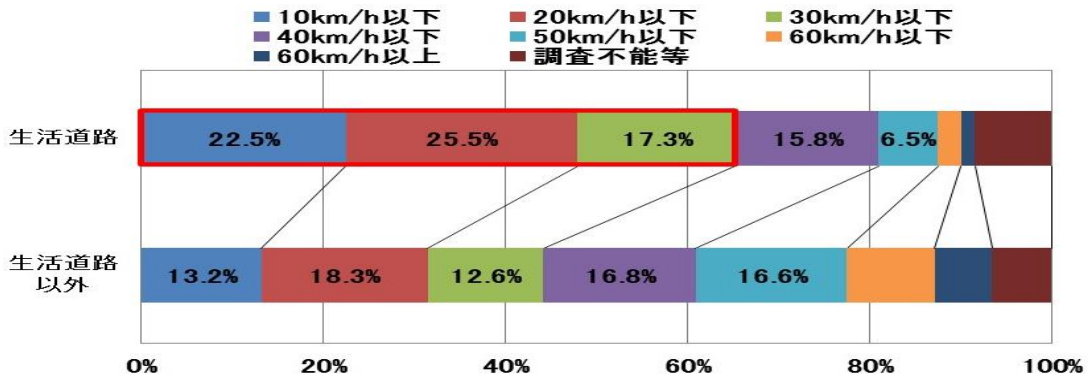
## 2 生活道路における交通事故発生状況（死亡・重傷事故）

### (1) 事故類型別



○ 生活道路での事故は、出会い頭が42.8%を占め、生活道路以外の道路での事故と比較して2.1倍

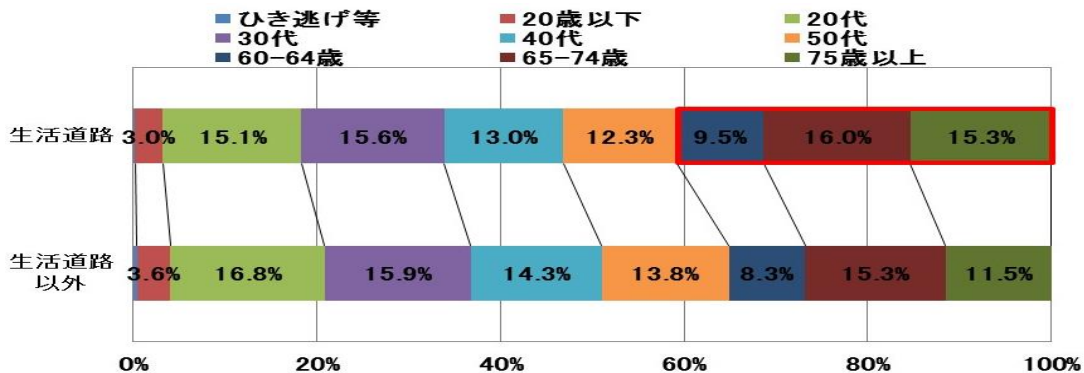
### (2) 危険認知速度別



○ 生活道路での事故は、危険認知速度（危険を認知した時点の速度）が30km/h以下の事故が65.3%を占め、低速度での事故の割合が高率

### (3) 年齢層別

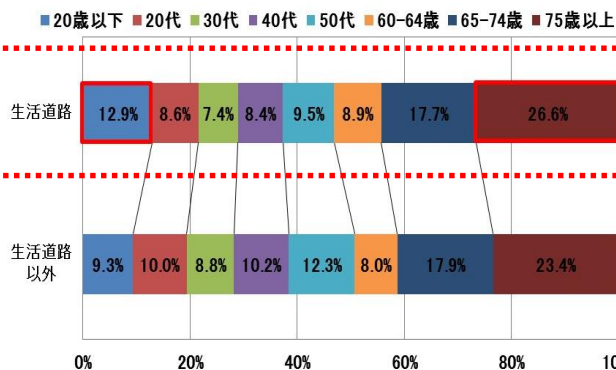
#### ア 加害者側 (第1当事者)



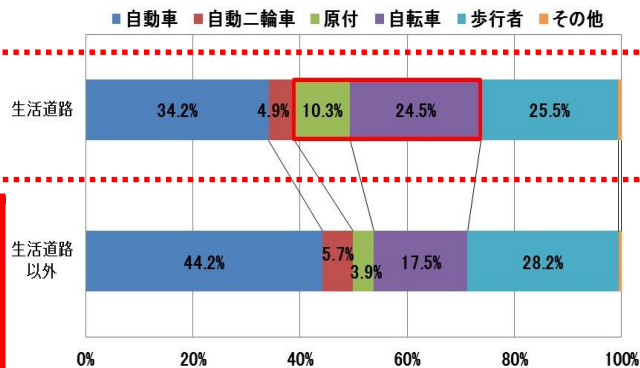
○ 生活道路での事故は、高齢になるにつれ発生割合が増加

#### イ 被害者側 (死者・重傷者)

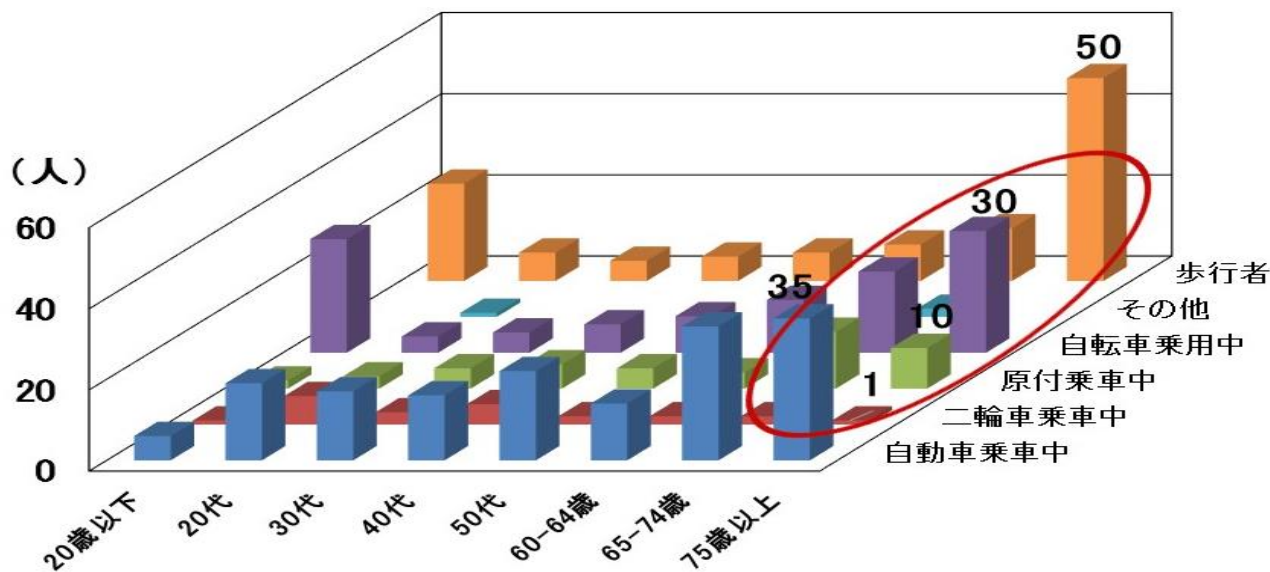
##### (ア) 年齢層別



##### (イ) 当事者別



##### (ウ) 年齢層別・当事者別 (生活道路)



- 生活道路での事故による被害は、20歳以下の若年層、75歳以上の高齢者の被害が多い
- 当事者別では、生活道路以外の道路と比較して、生活道路での死傷が、原付乗車中は2.6倍、自転車乗車中は1.4倍高い
- 特に75歳以上になると、生活道路における歩行中の死傷が顕著